

## 広報広聴常任委員会研修視察報告書

1. 実施日 令和5年9月27日(水)～28日(木)
2. 参加者  
委員長 中尾 大助  
副委員長 川田 隆志  
委員 黒澤 佳代子  
委員 佐藤 久芳  
委員 堀越 幸広  
委員 須田 敏彦  
委員 山口 将  
事務局 椎名 香織
3. 視察地 栃木県栃木市  
栃木県足利市
4. 交通機関 貸切バス
5. 視察結果 別紙のとおり

## 栃木県栃木市

面積：331.50km<sup>2</sup>

人口：154,879人（令和5年8月末日現在）

人口密度：467.21人/km<sup>2</sup>

### 【概要】

栃木県の南部に位置し、東京から鉄道でも、高速道路でも約1時間の距離にあります。

南北約22.3km、面積約331.50km<sup>2</sup>を有し、茨城県、群馬県、埼玉県の3つの県と接する希有な地域でもあります。

地勢としては、西に三疊山と岩船山があり、中央には太平山を中心とする太平山県立自然公園が広がり、南にはラムサール条約登録地である渡良瀬遊水地など、県南のシンボリックな自然景観と、渡瀬川、思川、巴波川、永野川、三杉川など多くの豊かな河川を有しています。

また、北東部から南東部にかけて関東平野に連なる平坦地が広がり、県内有数の農業地帯となっており、米はもちろん、ぶどう、いちご、トマト、きゅうり、さつまいもなどの特産物に恵まれています。

### 【調査事項】

1. 地域別議会報告会の開催について
  - (1) 役割分担やテーマの決め方についてどのように行ったのか
  - (2) 協力団体等との連携はどのように行ったのか
2. 高校生との意見交換会について
  - (1) 参加した高校生の反応や感想について
  - (2) 実施に至るまでの経緯と学校側との協議について
3. 議会報告会開催に伴う提言書を執行部へ提出することについて
  - (1) 執行部側の回答について

### 【まとめ】

栃木市議会では、議会報告会の参加者減少、参加者の固定化、高齢化などの反省点があり、それらを克服するためにテーマの設定や高校生の参加、ワークショップ形式の導入など工夫して毎年開催していることがわかった。

本議会でも、議会基本条例に基づいて議会報告会を開催していたが、栃木市議会と同様な課題に直面していると考ええる。

これからの議会報告会は、議会活動を報告するだけでなく、幅広い世代の方々への情報発信と意見交換の場、また議員各位の資質向上を図るための機会でなければならない。

特に今年度に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響で中断していた議会報告会を開催する。

議会報告会の代わりとして、議会報告ビデオを動画配信サイトを通じて配信を行ってきたが、対面方式での開催は実に4年ぶりのことであり、今期の議会体制では初めての開催である。かつ、テーマを設定して延べ3日にわたりグループディスカッション方式での意見交換会も初めて行う。栃木市議会でも課題を解決するために令和4年度に現在の実施方式へ開催方法のリニューアルを行った。議会報告会も今回開催する意見交換会方式について事業終了後に速やかに委員会内でブラッシュアップを行い、例えばテーマ設定の仕方や、開催日時、開催場所についてなどは議論を尽くして「大泉町らしい議会報告会」の形を創りあげていかなければならないと考える。

また、執行部への意見書の提出については、町民の意見を今後の政策に繋げることは重要なことだが、すでに議員は定例会での一般質問や委員会での質疑、予算要望の提出など現状の議会活動の範囲の中で意見や要望を反映させることは可能であるため、議会報告会内での意見書の提出ではない形で意見反映をさせることを考えなければならぬと考える。

## 栃木県足利市

面積：177.76km<sup>2</sup>

人口：139,822人（令和5年9月1日現在）

人口密度：786.58人/km<sup>2</sup>

### 【概要】

足利市は、渡瀬川や緑の山々などの豊かな自然に恵まれています。また、足利学校や鑱阿寺に象徴される古い歴史と文化を受け継ぐ街です。

古くから織物のまちとして知られていますが、近年はアルミや機械金属、プラスチック工業などを中心に、総合的な商工業都市になっています。

### 【調査事項】

1. 大学生とのまちづくり討論会、高校生との意見交換会について
  - (1) 実施に至るまでの経緯について
  - (2) 参加した大学生、高校生の反応や感想について
  - (3) 役割分担やテーマの決め方についてどのように行ったのか
2. 中学生への出前講座について
  - (1) 実施に至るまでの経緯について
  - (2) 参加した中学生の反応や感想について
  - (3) 役割分担やテーマの決め方についてどのように行ったのか
3. 市議会広報紙のリニューアルについて
  - (1) リニューアルに至るまでの経緯について
  - (2) 予算について

### 【まとめ】

若年層との意見交換は、政治に興味を持ってもらう機会としては重要である。特に選挙権が18歳へ引き下げられ、若年層の投票率の低下が叫ばれている現代において、主権者教育が担う役割は大変重要であり、また、主権者教育を先頭に立って実施することは私たち政治へ携わる者の使命だと考える。今回の足利市議会への視察を通じて、意見交換会はもちろんのこと、そもそも議会とはどんな仕事をしているところなのか、選挙とは何かなどの基礎知識から、実際に生徒、学生の生の声を聴き政策へ反映させる姿勢は大いに参考とな

った。そして大学生、高校生、中学生へ積極的に議会側からアプローチをしていく必要性を感じた。以上のように本議会でも定期的な開催に向けて委員会内での協議を開始するべきだと考えるが、同時に若年層へきちんと説明できるように議員各位の資質向上も同時並行で行わなければならないと感じた。

議会広報紙のリニューアルについても、足利市議会ではタイトルの公募や地元高校生とのコラボなど住民参加型の企画構成を行っており、一目で読んでみたいと感じる紙面構成となっていることは大いに参考となった。一番身近な議会を知ってもらえる手段である議会広報紙のリニューアルは「開かれた議会」「議会の見える化」を行っていく上で大変重要である。議会広報紙も早急に紙面の大幅リニューアルに向けた議論を開始するべきだと考える。